

- 問1 弥生時代の国際関係についてまとめた学習表において、1世紀に「奴国の王」が後漢の光武帝から授けられたとされる「金印」が、実際に見つかった場所として正しいものはどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 奈良県の纏向遺跡 2. 福岡県の志賀島 3. 大阪府の大仙陵古墳 4. 佐賀県の吉野ヶ里遺跡
- 問2 福岡県の志賀島で発見された金印には、正方形の印面に「漢委奴国王」の五文字が刻まれており、つまみの部分は蛇を模した形状（蛇鈕）となっています。この金印を奴国の王が後漢の皇帝から授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため 2. 大陸から仏教を公式に導入するための許可を得て、国内の宗教的な統一を図ろうとしたため 3. 卑弥呼が「親魏倭王」の称号を得るための事前交渉として、大陸との友好関係を築くため 4. モンゴル民族の侵攻に対抗するため、大陸の軍隊に日本列島までの援軍を要請したため
- 問3 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。 2. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることに目的となったため。 3. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。 4. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。
- 問4 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
1. 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。 2. 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐる、むら同士の争いが発生した。 3. 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。 4. 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。
- 問5 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 環壕集落 2. 貝塚 3. たて穴住居 4. 高床倉庫
- 問6 1世紀半ば、倭の奴国の王が、危険を冒してまで当時の中国の王朝であった漢（後漢）に使節を送り、皇帝から金印を授かった政治的な背景・目的として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から王としての地位を認められ、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため 2. 中国で発明されたばかりの青銅器や鉄器の製造技術を独占し、列島全体を武力で統一するため 3. 中国で起きていた大規模な農民反乱を鎮圧するために、倭の軍勢力を提供して同盟関係を築くため 4. 中国で当時流行していた仏教を正式に日本へ導入し、宗教的な力によって国内の混乱を鎮めるため
- 問7 3世紀から17世紀までの日本の政治の展開や社会の様子を、AからDの4つの期間に分けて整理した年表があります。このうち、最も古い時期である「A」の期間として示されている「3世紀」とは、西暦で表すとどの範囲を指しますか。 (2023年 山形県公立入試 類似)
1. 西暦200年から299年まで 2. 西暦101年から200年まで 3. 西暦301年から400年まで 4. 西暦201年から300年まで
- 問8 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. 隋 2. 漢 3. 魏 4. 秦
- 問9 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
1. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。 2. 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。 3. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。 4. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。
- 問10 千葉県茂原市の宮ノ台遺跡から出土した、弥生時代中期の代表的な土器である「宮ノ台式土器」が作られていた頃の世界情勢について、日本の状況と関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 日本では鉄器の使用が始まったばかりであったが、世界では中国の殷（商）が文字や青銅器を使用し始めていた。 2. 日本では仏教が伝来し聖徳太子が政治を行っていたが、世界ではメソポタミアでハンムラビ王が法典を制定した。 3. 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。 4. 日本では狩猟や採集が生活の中心であり、世界ではエジプト文明においてピラミッドが建設されていた。
- 問11 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化させた稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
1. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 2. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 3. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 4. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。
- 問12 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 2. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀 3. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
- 問13 中国の歴史書「魏志倭人伝」に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。 2. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。 3. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。 4. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 福岡県の志賀島	1世紀の57年、倭の奴国が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かったことが中国の歴史書『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡市にある志賀島で農作業中に偶然発見されました。印面には「漢委奴国王」と刻まれています。
問2	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自らの権威を高めて周辺の勢力を抑えようとしたため	当時の倭（日本）は多くの小国に分かれていました。奴国のような有力な国の王は、中国の皇帝に使節を送って「臣下」となる代わりに、王としての正当性を認めてもらう（冊封を受ける）ことで、国内や周辺諸国に対する権威を強化しようとした。仏教の伝来や卑弥呼の登場、モンゴルの侵攻はすべて後の時代の出来事です。
問3	答え 4 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問4	答え 2 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐる、むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐる対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問5	答え 4 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問6	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認められ、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立していました。奴国の王は、強大な力を持つ中国の王朝に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を届けることで「王」としての承認（冊封）を受けました。授けられた金印は、中国皇帝の威光を背景に自らの支配の正当性を周囲に示すための重要な道具として機能しました。なお、仏教の伝来は6世紀、武力による統一の動きが加速するのは3世紀以降のことです。
問7	答え 4 西暦201年から300年まで	世紀とは100年を一つの単位として時代を区切る方法です。西暦1年から100年までを「1世紀」と定めるため、2世紀は101年から200年、3世紀は201年から300年となります。日本の歴史において3世紀は、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国（魏）に使いを送った時期などを含む、国家形成の重要な時期にあたります。
問8	答え 2 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問9	答え 2 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐる集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問10	答え 3 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。	宮ノ台式土器が作られた弥生時代中期は、日本列島で稲作を基盤とした社会が確立し、小国が形成され始めた時期です。これと同じ時期、世界の西側ではイタリア半島から勢力を伸ばしたローマが、北アフリカや西アジアを含む地中海一帯を版図に収める巨大な帝国を築いていました。歴史学習においては、日本の時代区分と世界の大きな出来事を結びつけて理解することが重要です。
問11	答え 1 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。
問12	答え 3 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問13	答え 2 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。